

日本甲状腺学会 次世代研究者の会 (NexT-JTA)

会報 Vol.1

2024年1月31日



編集

NexT-JTA 世話人

(代表) 名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科 岩間信太郎

群馬大学大学院医学系研究科 応用生理学分野 天野出月

国立成育医療研究センター研究所 分子内分泌研究部 中尾佳奈子

京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 山内一郎

日本甲状腺学会 次世代研究者の会 (NexT-JTA) 発足のお知らせ

庶務理事である橋本貢士先生（獨協医科大学埼玉医療センター）のご指導のもと、NexT-JTA が発足しました。学会員の皆様へ向けて、橋本貢士先生より以下のようにご紹介を頂きました。

~~~~~

昨今、わが国の甲状腺研究、特に基礎研究に携わる研究者は激減しています。現在活動中の甲状腺研究者をサポートし、さらに新たな研究者を育成することは甲状腺学会にとって喫緊の課題と言えます。そこでこの度、中堅若手の甲状腺学研究者を支援・育成し、わが国の甲状腺研究を発展させるため、日本甲状腺学会 次世代研究者の会 (Nextgeneration committee of Thyroidologist in the Japan Thyroid Association: NexT-JTA) が発足しました。2023 年 2 月の理事会で正式承認されております。NexT-JTA 発足にあたり、その活動を円滑に進めるため、代表世話人を岩間 信太郎先生(2002 年卒、名古屋大学医学部附属病院糖尿病・内分泌内科)にお願いし、他に天野 出月先生(2007 年卒、群馬大学大学院医学系研究科応用生理学分野)、中尾 佳奈子先生(2006 年卒、国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部)、山内 一郎先生(2009 年卒、京都大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学)に世話人をお願いしました。いずれも新進気鋭の甲状腺研究者の方々です。

NexT-JTA には、1)七條賞、ヤマサ基礎医学研究助成、コスミック研究創成賞、ロシュ若手奨励賞のいずれかを受賞、もしくは 2)博士号を取得し、かつ 45 歳以下の日本甲状腺学会員であれば、どなたでも入会して頂けます。今回、この基準をもって NexTJTA への入会を募集したところ、世話人を含む 20 名の方々に入会して頂きました。入会は随時受け付けておりますので、基準を満たしている甲状腺学会員の方々におかれましてはぜひ入会のご検討をお願いいたします。

NexT-JTA では、日本甲状腺学会学術集会での中堅若手の研究者による NexT-JTA シンポジウムやセミナー形式の会員会議を企画、開催し、会員のキャリアサポートや会員同士の情報交換を推進して参ります。2023 年 12 月に行われる第 66 回日本甲状腺学会学術集会では大会長の絹谷先生のご厚意で、早速第 1 回の NexT-JTA シンポジウムの開催を予定することができました。絹谷先生および大会事務局の方々に厚く御礼申し上げます。

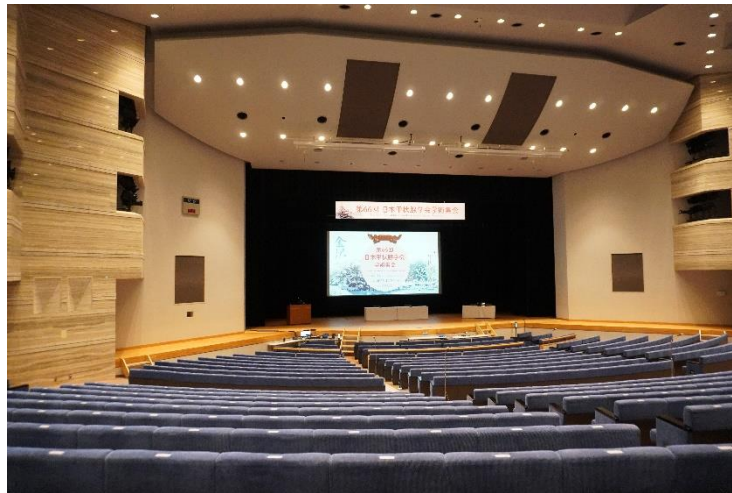
Next-JTA は中堅若手研究者の支援と相互交流に積極的に取り組み、魅力的な活動を通じてわが国の甲状腺学の進歩と発展に貢献することを目指しています。甲状腺学会会員の皆様におかれましては Next-JTA へのご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

(日本甲状腺学会ニュースレター 2023 年 7 月 第 65 号より)

~~~~~

第 66 回日本甲状腺学会学術集会（2023 年 12 月）活動報告

日本甲状腺学会 次世代研究者の会（Next-generation committee of Thyroidologist in the Japan Thyroid Association:NexT-JTA）は、2023 年 2 月の理事会承認後、入会を募り、会員 20 名にて始動いたしました。会長の絹谷先生のご厚意により、12 月に行われた第 66 回日本甲状腺学会学術集会において実りある活動を行わせて頂くことができましたので、この場をお借りしてご報告申し上げます。



まず大会 2 日目に第 1 回全体会合を行いました。最初に自己紹介を通じて、会員それぞれのキャリアと研究内容を共有しました。各会員の経歴は多様性に富んでおり、本学会の特色とも言える学際的側面が感じられました。会員同士の距離が縮まったところで、NexT-JTA 設立の目的である「日本の甲状腺研究を発展させるため、有機的な交流及び活動の場を提供することにより、若手研究者を育成・支援する」ための今後の活動計画について、活発な議論が行われました。



大会 3 日目には、第 1 回 NexT-JTA シンポジウムを開催させて頂きました。基調講演として、NexT-JTA の設立から現在に至るまで多大なご支援を頂いている庶務理事の橋本貢士先生(獨協医科大学埼玉医療センター)より、今後の日本の甲状腺研究についての熱いメッセージを頂きました。続いて NexT-JTA 会員の鈴木菜美先生(伊藤病院)、森下啓明先生(愛知医科大学)、松瀬美智子先生(長崎大学)から、ご自身の研究の紹介と甲状腺研究に懸ける想いを述べて頂きました。本学会の先輩方からは叱咤激励のコメントを頂戴し、また 100 名以上の先生方にご参加頂き、文字通り盛会に終えることができました。

基調講演： NexT-JTA の発足にあたって
獨協医科大学埼玉医療センター 橋本貢士 先生
(座長： 岩間信太郎 先生)



演題 1： 臨床研究からの情報発信～専門病院のメガデータから世界に発信できること～
伊藤病院 鈴木菜美 先生
(座長： 山内一郎 先生)



演題 2: 甲状腺濾胞細胞における新たな小胞体ストレス応答の解析

愛知医科大学 森下啓明 先生

(座長: 天野出月 先生)



演題 3: 私のこれまでの「甲状腺癌のゲノム研究」

長崎大学 松瀬美智子 先生

(座長: 中尾佳奈子 先生)



NexT-JTA は会員を広く募集しておりますので、入会を希望される先生方は学会事務局へ御連絡ください。若手会員同士の輪を広げ、切磋琢磨し、日本の甲状腺研究を盛り上げていきたいと思っております。

今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



会員リスト・自己紹介

<世話人>

岩間 信太郎（名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科）（代表）

天野 出月（群馬大学大学院医学系研究科 応用生理学分野）

中尾 佳奈子（国立成育医療研究センター研究所 分子内分泌研究部）

山内 一郎（京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学）

<会員>

伊澤 正一郎（鳥取大学医学部 循環器・内分泌代謝内科学）

木村 哲也（大阪大学微生物病研究所 代謝免疫学グループ）

呉 壮香（日本医科大学 統御機構診断病理学）

三小田 亜希子（国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター 母性内科）

鈴木 菜美（伊藤病院 内科）

田村 温美（東京医科大学 呼吸器・甲状腺外科学分野/米国国立衛生研究所）

中野 賢英（昭和大学横浜市北部病院 甲状腺センター）

濱田 航一郎（長崎大学病院 総合診療科）

平塚 いづみ（藤田医科大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科学）

藤澤 諭（京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 専門職学位課程（医療疫学））

藤田 直也（防衛医科大学校 総合臨床部）

松瀬 美智子（長崎大学 原爆後障害医療研究所 放射線災害医療学研究分野）


松本 和久（鳥取大学医学部 循環器・内分泌代謝内科学分野）


森下 啓明（愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科）


山口 直哉（名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野）


山田 宏哉（藤田医科大学医学部 衛生学教室）

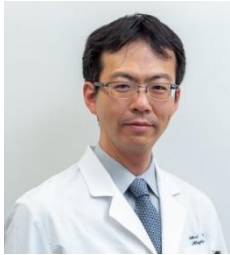
（五十音順、敬称略）


	<p>世話人代表 岩間 信太郎(いわま しんたろう) 名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科</p> <p>自己免疫が関連する甲状腺疾患および下垂体疾患について、自己抗原の解明やバイオマーカーの開発に関する研究を行っています。</p>
<p>Researchmap https://researchmap.jp/IWAMA-728</p>	


	<p>世話人 天野 出月(あまの いづき) 群馬大学大学院医学系研究科 応用生理学分野</p> <p>甲状腺ホルモンの脳発達、神経機能への影響に関する基礎研究を行っています。</p>
<p>Researchmap https://researchmap.jp/izukiamano</p>	

	<p>世話人 中尾 佳奈子 (なかお かなこ) 国立成育医療研究センター 分子内分泌研究部</p> <p>内分泌内科医ですが、移行期医療に関心を持ったことをきっかけに、小児内分泌学を臨床・研究の両面から学んできました。 先天性甲状腺疾患の分子病態解明や、遺伝型-表現型解析に興味を持って取り組んでいます。</p>
<p>Researchmap https://researchmap.jp/kanako tn</p>	


	<p>世話人 山内 一郎 (やまうち いちろう) 京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学</p> <p>GH と脱ヨード酵素の関連についての研究を行い、現在も所属する教室で 2019 年に博士(医学)を取得しました。甲状腺生理学に関するトランスレーショナル研究、興味ある病態についての臨床研究を主にしています。</p>
<p>Researchmap https://researchmap.jp/ichiroy 教室 HP http://metab-kyoto-u.jp/index.html</p>	

	<p>伊澤 正一郎 (いざわ しょういちろう) 鳥取大学医学部 循環器・内分泌代謝内科学</p> <p>甲状腺疾患をはじめとする内分泌代謝内科の専門診療や教育を行いながら、自己抗体に着目した甲状腺癌の新規診断法開発に取り組んでいます。また教室では内分泌グループの責任者として甲状腺眼症や睡眠障害など甲状腺疾患の合併症に注目した臨床研究、治験に取り組んでいます。</p>
<p>Researchmap https://researchmap.jp/sho_izawa</p>	


	<p>木村 哲也 (きむら てつや) 大阪大学微生物病研究所 代謝免疫学グループ (研究室主宰者)</p> <p>専門医取得後、基礎研究を続けています。これまでマクロファージとリソソーム、mTOR シグナル経路に関する研究を行ってきました。これらの研究で培った知見・技術を、内分泌代謝領域の研究で今後活かしたいと考えています。共同研究の御依頼や、研究に関する御質問がありましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。</p>
<p>Researchmap https://researchmap.jp/kimura-tetsuya 教室 HP http://www.biken.osaka-u.ac.jp/laboratories/detail/63 e-mail: tetsuyakimura@biken.osaka-u.ac.jp</p>	

	<p>呉 壮香 (くれ しょうこ) 日本医科大学 統御機構診断病理学</p> <p>診断病理医として臨床診療に従事する傍ら、甲状腺腫瘍の診断や治療に関わるバイオマーカーについて分子病理学的な側面から研究を行っています。現在はアメリカの Dana-Farber Cancer Institute に留学中で、癌免疫の研究に携わっています。この会を通して色々な分野の若手研究者の方々と交流させていただきたいと考えています。</p>
<p>Researchmap https://researchmap.jp/skure</p>	

準備中	<p>三小田 亜希子(さんこだ あきこ) 国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター 母性内科</p> <p>胎内環境が母児の周産期・長期予後に及ぼす影響を、臨床疫学研究、データ統合型研究、リアルワールドデータ研究などの手法を用いて検討しています。母性内科、成育医療の視点から、母児にとって最善の周産期医療を省察し社会に貢献したいと考えています。</p>
-----	--


	<p>鈴木 菜美 (すずき なみ) 伊藤病院 内科</p> <p>日常臨床における疑問をもとに、主に自己免疫性甲状腺疾患に関する臨床研究を行っています。甲状腺疾患専門病院という特性を生かし、臨床の側面からアプローチした研究に興味があります。</p>
--	---


準備中	<p>田村 温美 (たむら あつみ) 東京医科大学 呼吸器・甲状腺外科学分野/米国国立衛生研究所 (National Institutes of Health, National Cancer Institute)</p> <p>バセドウ病などの良性疾患から、高度進行甲状腺癌や未分化癌に至る幅広い甲状腺疾患に対して、手術を含む外科的治療を中心に診療に取り組んでいます。現在は米国国立衛生研究所にて、甲状腺癌の発癌メカニズムに関する基礎研究に従事しています。</p>
-----	--


	<p>中野 賢英 (なかの まさひで) 昭和大学横浜市北部病院 甲状腺センター</p> <p>悪性高熱症の責任遺伝子モデル作成についての研究を行い、2014年に博士(医学)を取得しました。現在は、甲状腺外科医として活動している中で、甲状腺結節性病変に対する低侵襲治療としてのラジオ波焼灼療法の可能性について、国内での臨床研究を進めています。</p>
<p>教室 HP http://thyroidcenter.jp/</p>	


準備中	<p>濱田 航一郎（はまだ こういちろう） 長崎大学病院 総合診療科</p> <p>遺伝子改変甲状腺癌マウスモデルを用いて、ミトコンドリア品質管理機構の異常と甲状腺の腫瘍化との関係に関する研究を行い、2023年に博士(医学)を取得しました。引き続き、甲状腺癌マウスモデルを用いた研究を行っています。</p>
Researchmap https://researchmap.jp/k-hamada	


準備中	<p>平塚 いづみ（ひらつか いずみ） 藤田医科大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科学</p> <p>Coming soon</p>

	<p>藤澤 諭（ふじさわ さとし） 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 専門職学位課程（医療疫学）</p> <p>岡山大学大学院で 2019 年に博士(医学)を取得し、現在は京都大学の公衆衛生大学院で臨床研究について学んでおります（臨床研究者養成コース:MCR 18 期生）。現在は患者報告アウトカム(Patient-Reported Outcome)に着目した研究を行っています。</p>
Researchmap https://researchmap.jp/fujisa	

	<p>藤田 直也（ふじた なおや） 防衛医科大学校 総合臨床部</p> <p>破壊性甲状腺炎をバセドウ病から鑑別する新規バイオマーカーとしての血中 DIT(ジヨードチロシン)の有用性について多機関共同研究を行っています。詳細は公開文書を御覧下さい。</p>
公開文書 https://www.ndmc.ac.jp/wp-content/uploads/2022/07/4494.pdf	

	<p>松瀬 美智子 (まつせ みちこ) 長崎大学 原爆後障害医療研究所 放射線災害医療学研究分野</p> <p>甲状腺癌の発癌・進展メカニズム、甲状腺未分化癌に対する新規分子標的治療、甲状腺癌幹細胞に関する基礎的研究を行ってきました。今後も甲状腺癌の患者さんのための、より正確な診断、より効果的な治療に貢献できるような研究を行っていきたいと考えています。</p>
<p>Researchmap https://researchmap.jp/7000002016 教室 HP https://www.genken.nagasaki-u.ac.jp/drms/</p>	

	<p>松本 和久 (まつもと かずひさ) 鳥取大学医学部 循環器・内分泌代謝内科学分野</p> <p>バセドウ病と睡眠障害の関連性について臨床研究を行い、2022 年に博士(医学)を取得しました。甲状腺疾患を中心に内分泌代謝疾患に関する臨床研究を取組んでおります。</p>
<p>Researchmap https://researchmap.jp/kazu-matsumoto</p>	

	<p>森下 啓明 (もりした よしあき) 愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科</p> <p>内分泌細胞における小胞体ストレスを研究テーマにしており、2011年に名古屋大学で学位を取得しました。2012年より4年間ミシガン大学 Peter Arvan 研究室に留学し、以来甲状腺濾胞細胞における小胞体ストレスと細胞生存について基礎研究を続けております。</p>
<p>Researchmap https://researchmap.jp/y morishita 教室 HP https://www.aichi-med-u.ac.jp/su06/su0607/su060703/06.html</p>	

準備中	<p>山口 直哉 (やまぐち なおや) 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野</p> <p>先天性甲状腺機能低下症(CH)の原因となるヨードトランスポーター遺伝子の研究を主にモデルマウスを用いて行っております。ヨードトランスポーターに関する研究を通して、CH の病態や甲状腺でのヨード動態の解明を目指しています。</p>

準備中	<p>山田 宏哉 (やまだ ひろや) 藤田保健衛生大学医学部 衛生学教室</p> <p>Coming soon</p>

日本甲状腺学会 次世代研究者の会 内規

1. 名称

日本語名称：日本甲状腺学会 次世代研究者の会

英語名称：Next-generation committee of Thyroidologist in the Japan Thyroid Association

英語略称：NexT-JTA

2. 目的

日本の甲状腺研究を発展させるため、有機的な交流及び活動の場を提供することにより、若手研究者を育成・支援することを目的とする。

3. 体制

- 1) 活動を円滑に進めるため、庶務理事の下に世話人を若干名置き、企画運営にあたる
- 2) 世話人は、原則として臨床分野（内科/外科/小児科含む）より 2-3 名、基礎分野より 1-2 名を選出する
- 3) 世話人の任期は 1 期 2 年とし、再任を妨げない。
- 4) 設立時には以下の日本甲状腺学会員を世話人とし、以後は本会世話人同士の合議により候補者を挙げ、理事会による承認を得る。

岩間信太郎（代表）（2002 卒） 名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科

中尾佳奈子（2006 卒） 国立成育医療研究センター研究所 分子内分泌研究部

天野出月（2007 卒） 群馬大学大学院医学系研究科 応用生理学分野

山内一郎（2009 卒） 京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学

4. 入会基準

- 1) 七條賞、ヤマサ基礎医学研究助成、コスミック研究創成賞、ロシュ若手奨励賞のいずれかを受賞し、本会の趣旨に賛同する 45 歳以下の日本甲状腺学会員。
- 2) 上記以外に、博士号を取得した 45 歳以下の日本甲状腺学会員から入会希望があれば、随時受け付ける。

日本甲状腺学会学術集会終了後から 3 ヶ月以内に、本会に未入会の受賞者に対し、入会を案内する。

5. 退会基準

- 1) 48 歳となる年度の 3 月末日をもって退会とする。
- 2) 教授職（またはそれに相当する職）に就任した場合には、その年度の 3 月末日をもって退会とする。

- 3) 専門医療機関あるいは研究機関を離れて研究継続が事実上困難となった場合には、その年度の3月末日をもって退会とする。
- 4) 上記以外に退会希望があれば随時受け付ける。

6. 活動内容

- 1) 本会は、少なくとも年1回の全体会合を開催する。原則として、日本甲状腺学会学術集会にあわせて開催する。
- 2) 日本甲状腺学会学術集会における若手シンポジウムを当該の学術集会長と相談して企画・開催する。
- 3) セミナー形式の会議を開催し、会員同士による情報交換を推進する。

2023年2月14日 第1版